

[Work in Progress] 研究報告

## IOT 研究会発表資料アーカイブシステムの試作

横木 健太<sup>1</sup> 山井 成良<sup>1,a)</sup> 北川 直哉<sup>1</sup>

### A Prototype Archive System for SIG-IOT Presentation Materials

#### 1. はじめに

平成 27 年 9 月開催のインターネットと運用技術 (IOT) 研究会運営委員会において、従来の電子図書館による研究報告のアーカイブに加えて、発表の際に使用されたプレゼンテーション資料 (以下、発表資料) についても同様にアーカイブ化することが提案された。しかし、そのようなアーカイブシステムを運用する場合、資料のアップロードや各発表との関連付け、サーバの保守などの運用上の手間がかかる。そこで、これらの手間を可能な限り省いたアーカイブシステムを試作する。

#### 2. 要求要件

アーカイブシステムを試作するうえで、管理の省力化のため、次に示すような要件が求められた。

- 発表資料をアップロードし、電子図書館の研究報告と関連付けて保存できること
- 発表資料はアーカイブシステムの自前サーバ上に保持しないこと
- 研究会登録会員のみ発表資料を参照可能であること
- 発表者が自ら発表資料をアップロードできること
- 管理者によって適切に管理可能であること
- 発表資料のアクセス状況を確認できること

#### 3. 試作方式

求められた要求要件を満たすアーカイブシステムとして、**図 1** に示すようなシステムを現在試作中である。

本システムの特徴として、発表情報は電子図書館を、発表資料の保管は OneDrive<sup>\*1</sup> を、各種認証情報の更新には発表申込システムからのメール<sup>\*2</sup> および Outlook.com<sup>\*3</sup> をそれぞれ利用しており、本システムが保持する情報および管理者への負担を最小限に留めている。各利用者に対し、本システムがどのように動作するかを次に示す。

##### (1) 閲覧者

本システムへのアクセス時には研究会登録会員であることの確認として、研究発表会当日用サイトで使用してい

る年間パスワードを用いる。本システムにアクセスすると、システムは電子図書館にアクセスを行い、発表の一覧を取得し、表示する。この際、本システムに登録され、関連付けられた発表資料が存在する場合には、その発表資料を取得するための一時リンクも同時に表示される。

##### (2) 発表者

まず、本システムは発表申込システムより配信された発表申込の受領メールを Outlook.com から取得し、本文中の整理番号、パスワード、講演題名を保存する。発表者が本システムにアクセスする際には、この整理番号とパスワードを用いる。認証が成功すると、本システムはログインに使用した整理番号に対応する講演題目に対する発表資料のアップロードを受け付ける。発表資料がアップロードされると、本システムはその資料を OneDrive にアップロードし、講演題目と関連付ける。その後、電子図書館上に資料が登録されると、本システムは講演題名を用いて対応する発表資料を特定し、OneDrive 上の発表資料と関連付ける。

##### (3) 管理者

管理者は事前に作成した管理者用の ID とパスワードを使用して本システムにアクセスする。管理者は任意の資料に対する発表資料のアップロードや関連付けの修正、削除、各種認証情報の管理などのすべての操作を行うことが可能である。

#### 4. まとめ

本稿では現在試作中の発表資料アーカイブシステムの実装方法について述べた。なお、本システムの試作は東京農工大学工学部情報工学科 2 年次配当の特別プログラム「先進情報工学実験 III」の一部として実施している。

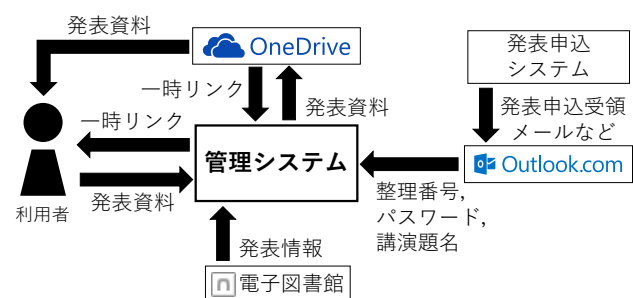


図 1 試作アーカイブシステムの構成

Fig. 1 The structure of the prototype archive system.

<sup>1</sup> 東京農工大学  
Tokyo University of Agriculture and Technology, Koganei, Tokyo 184-8588,  
Japan

a) nyamai@cc.tuat.ac.jp

\*1 Microsoft 社の運営するクラウドストレージサービス

\*2 現時点ではサンプルメールで代用

\*3 Microsoft 社の運営する Web メールサービス